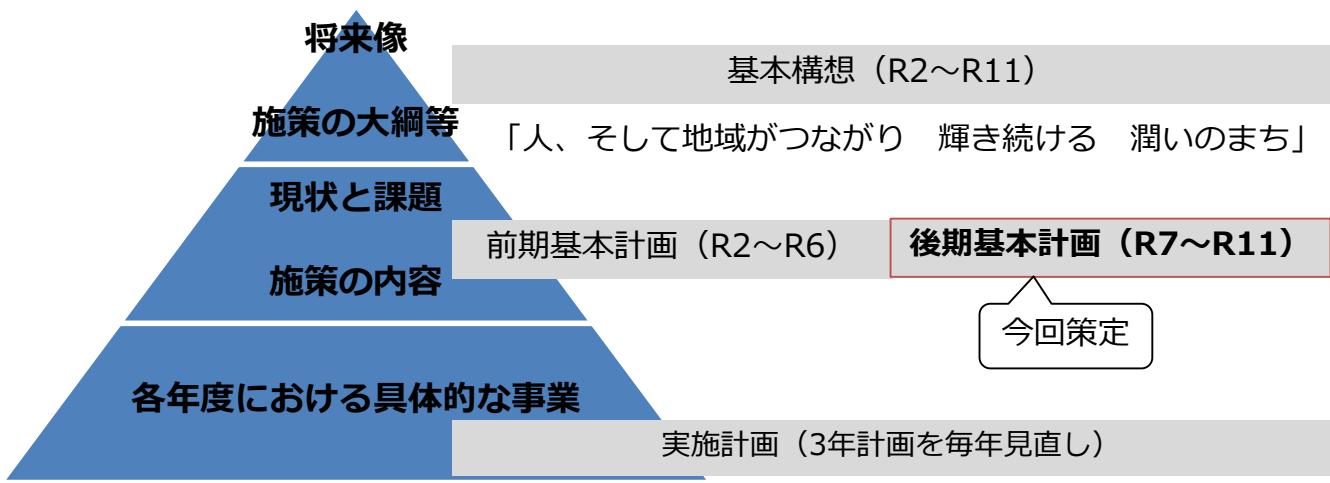


第6次白鷹町総合計画後期基本計画の策定について

- 第6次総合計画は、基本構想、基本計画及び実施計画から構成されています。
- 令和6年度に「後期基本計画」を策定し、今後5年間の施策の展開方向を示します。

- 基本構想の概要は、以下のとおりです。



基本目標
1 豊かな自然に包まれ、だれもが住みよく、安心・やすらぎを感じる「まち」づくり

施策の大綱

1. 豊富な資源の管理と有効活用
2. 持続可能な循環環境の利用
3. 安心して暮らせるまちづくり
4. 雪に強く住み続けられる環境づくり

基本目標
3 地域資源を活かし、魅力と活力にあふれる「しごと」づくり

施策の大綱

1. 白鷹らしい産業の振興
2. 生産性向上に向けた環境整備
3. 稼げる産業の振興

基本目標
2 夢を持ち郷土を愛する「ひと」づくり

施策の大綱

1. 子育てしやすい環境づくり
2. 次世代の人材(財)育成
3. 文化・スポーツ等を核とした地域活性化
4. 新たな人の流れの形成

基本目標
4 地域の個性を磨き、「^{つな}ぎ連携する」まちづくり

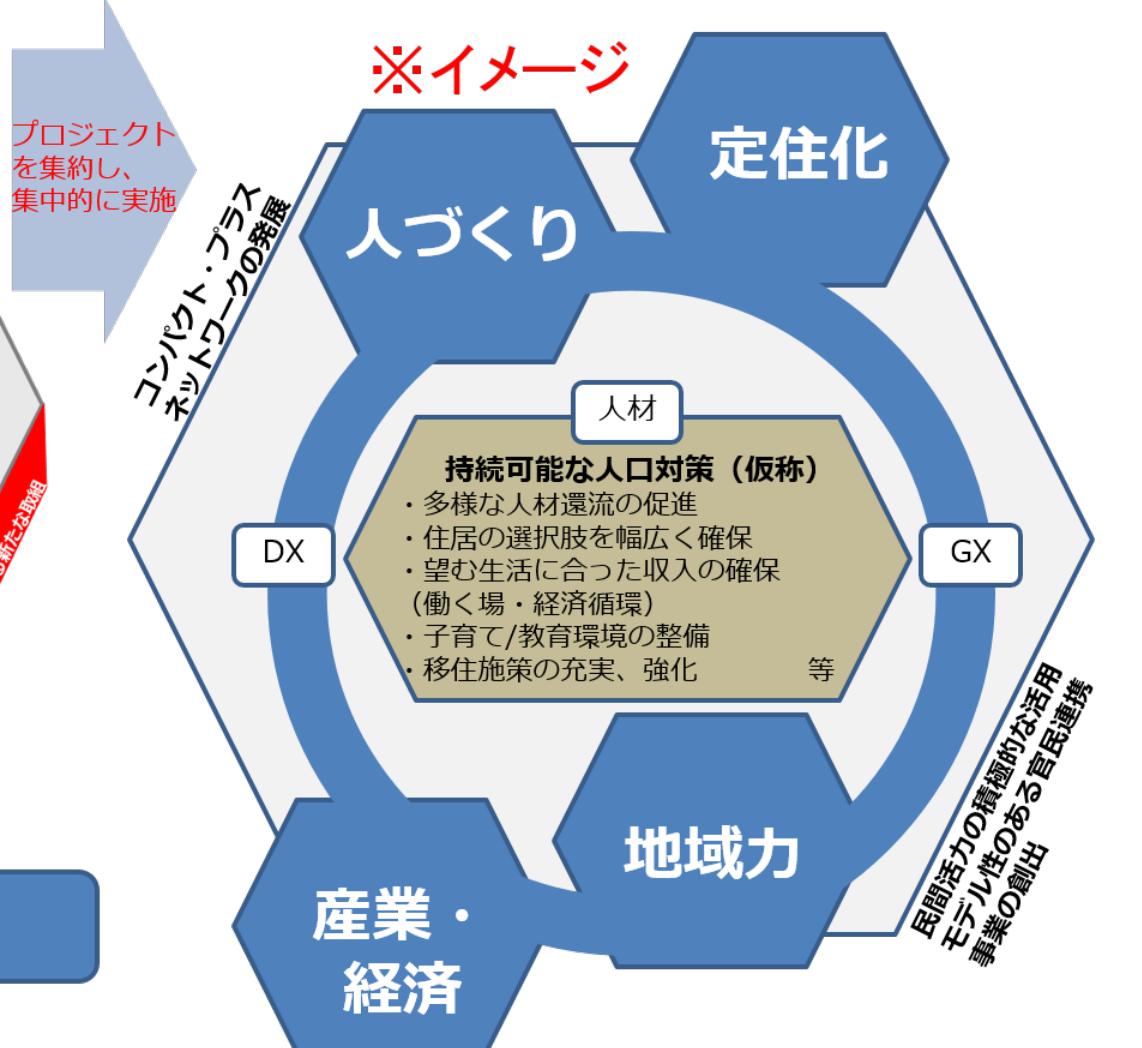
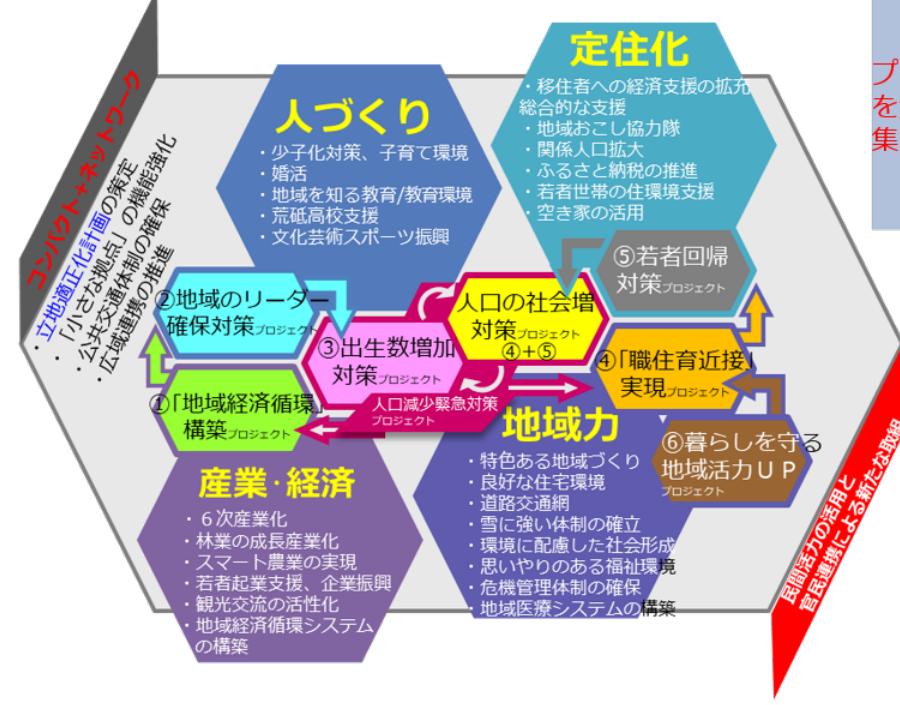
施策の大綱

1. 特性を生かしたそれぞれの地域づくり
2. 地域の担い手育成
3. コンパクト・プラス・ネットワーク
4. 広域連携(定住自立圏等)

(1) 後期基本計画の策定方針 (見直しの視点)

- 前期基本計画の評価・検証をしつつ、町民の皆様や各関係団体等からご意見を頂戴しながら、必要な見直しを行います。
- 後期基本計画であることから、基本構想及び前期基本計画をベースに内容整理し、各プロジェクトについても集約化を検討します。
- これまで重要な視点としてきた「人材確保」「DX」「GX」についても役割を明確にしながらい計画へ反映していきます。

前期基本計画の重点4分野と重点プロジェクト

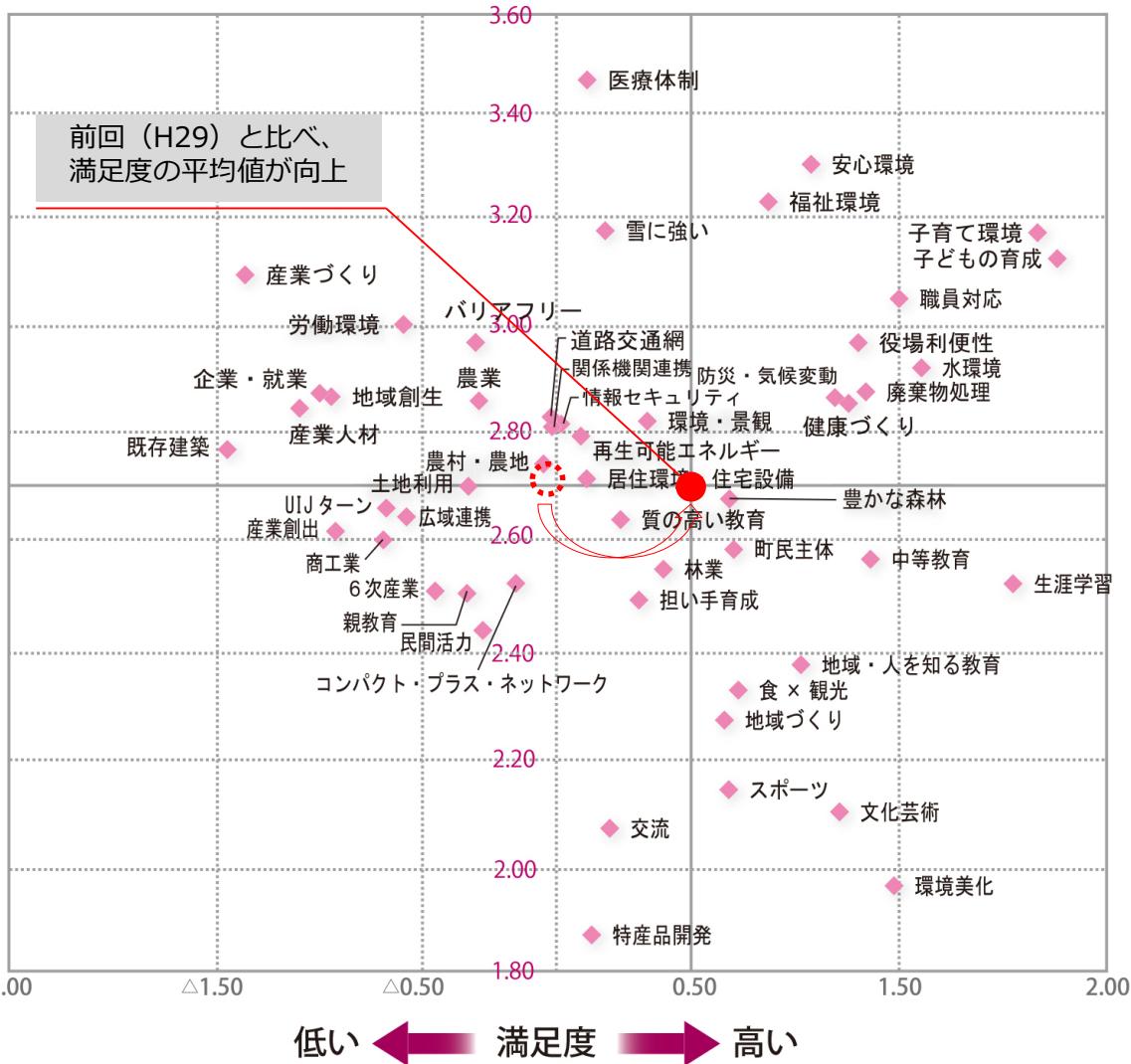


(2) まちづくりアンケートの結果

- 令和5年12月～令和6年1月にかけて、無作為抽出した18歳以上の町民4,000名を対象に、まちづくりアンケートを実施しました。
- 回答者数は全体で1,140名（回答率28.5%）、このうち、男性は543名（47.6%）、女性は581名（51.0%）、無回答16名（1.4%）となり、年齢構成は、10代～50代までの世代で約半数の550名の方に回答をいただいています。
- 特に、町の仕事、サービスに対する満足度・重要度については、回答結果を得点化して左下の表のとおり整理しました。
 - ・満足度・重要度ともに高いのは「子育て環境」や「子どもの育成」。 → 継続して推進すべきこと
 - ・一方、重要度は高いが満足度が低いのは「産業づくり」。 → 改善に向けて対応すべきこと
- 前回（H29）と平均値で比較すると、満足度は0.50ポイント（+0.42）で「改善」しており、重要度は2.75ポイント（-0.08ポイント）で「横ばい」という状況です。
- なお、重要度が低いものについては、整理や見直しのほか、重要性をご理解いただくための取組（PR強化等）も必要と考えています。

町の仕事、サービスに対する満足度・重要度（相関図）

[政策改善分野（重要度高、満足度低）] [政策維持分野（重要度、満足度とも高）]



※質問を抜粋（記述回答部分）

問10 あなたのお住まいの集落（区や町内）は、今後どうなっていくと思いますか（回答数：920/1,140）

問11 あなたのお住まいの集落で、特に困っていることは何ですか。（回答数：756/1,140）

⇒ 「95.8%」が現状より活力がなくなっていくと回答
(主なキーワード) 人口減少、高齢化、空き家、少子化、若者減少、限界集落

⇒ 「22.1%」が高齢化等により共同作業が困難、「19.2%」がコミュニティの維持が困難、担い手不足と回答
(主なキーワード) 担い手(なり手)不足、高齢化、除排雪、交通の便



人口減少と相関関係

- 自由記載のうち、特徴的なもの**
(人材確保、利便性向上、負担感軽減 等)
- 色々な能力や知識、見識を持っている人を掘り起こす。
 - 若者や女性の考えを取り入れる。
 - 地域活動は重要だが、住民も少なくなっているので事業圧縮も必要。
 - 高齢になったときに生活できるか（買い物、交通、雪、住宅、健康）。
 - 町外の人に興味を持ってもらえるようにする。
 - 白鷹で育った子どもが地元に戻れるようにする（働く場、魅力）。
 - 施策のPR不足。
 - 移住者だけではなく、今住んでいる人を大切にする。

縦軸に「重要度」、横軸に「満足度」を取った相関図にまとめることにより、全体の施策の状況を見ることができます。特に図の左上の領域にある施策は、「満足度が低く、重要度は高い」と考えられ、今後改善が望まれる領域と考えられます。「安心環境」や「子育て環境」などは、満足度、重要度ともに高く、今後も重点的に継続して施策を実施していくことが求められています。「産業づくり」などは、重要度は高いものの、満足度が低く、今後重点的に改善が求められている施策であることがわかります。

⇒ これらを踏まえると、**今住んでいる方の満足度を高めつつ、持続可能なまちづくりを進めていくためには、人材の確保・育成に加え、デジタル化の促進等による利便性の向上や負担感の軽減に向けた対応が必要と考えております。**